

ATHENA LIBRARY OF ENGLISH STUDIES

Part 15, Vols 62-64: Cultural History, 6th Series

全3巻セット定価(本体61,000円+税)・ISBN 978-4-86340-255-3・菊判

Part 16, Vols 65-67: Cultural History, 7th Series

全3巻セット定価(本体66,000円+税)・ISBN 978-4-86340-259-1・菊判



ALES
015

ALES
016

2017

イギリス食文化: 酒

イギリスの食文化史を扱う Pt. 13, Pt. 14 に続き、お酒がイギリスの社会と文化に重要な役割を持っていたことを示す 8 タイトルを集成。ある研究者が言うように “There is a lot more than drinking involved in drinking” なことをよく示す内容。

Contents of Part 15

Volume 62: John Dunlop *Artificial and Compulsory Drinking Usages of the United Kingdom* (1839; 1844 ed.) & Charles Tovey *Wit, Wisdom, and Morals, Distilled from Bacchus* (1878)
ISBN 978-4-86340-256-0・596 pp.・23,000円+税

ヴィクトリア朝中期の飲酒についてのよく知られた概説書 2冊でそれぞれの視点は対称的。*Artificial and Compulsory Drinking Usages of the United Kingdom* の著者ダンロップは禁酒運動の先駆者で、本書はイギリス諸島での飲酒の習慣や言い伝えについての情報の宝庫として知られる。かたや *Wit, Wisdom, and Morals, Distilled from Bacchus* の著者トーブエイはプリストルのワイン商人。本書は著者の 50 年にわたる商いの中の出来事の寄せ集めで、禁酒推進派の政治家ローソン Wilfrid Lawson への「決して皮肉のつもりではない」長い献辞で始まっている。ローソンはアルコール販売免許の制限を目指したが、著者はそれに異議を唱え、労働者階級のための教育的・娯楽的設備への支援の充実を主張した。

[Dunlop] Scottish Usages・Irish Usages・English Usages・Drinking Usages Common to the Three Kingdoms・Index

[Tovey] On the Wine of the Ancients・Drinking Habits and Customs of the Present and Past Centuries・Tales, Anecdotes, &c.・Temperance Essays and Anecdotes・Irish Tales and Anecdotes・Bacchanalian Lyrics・Over the Wine and Walnuts: Waifs and Strays from the Dinner Table・Index

Volume 63: Richard Valpy French *Nineteen Centuries of Drink in England: A History* (1884)

ISBN 978-4-86340-257-7・422 pp.・19,000円+税

古物研究者によるこのジャンルの古典的著作。歴史、逸話、抜粋・引用が混在するもの。著者は学校長を務めた人物。

Roman・Saxon・Danish・Norman・Plantagenet・Tudor・Stuart・Hanoverian Periods・A Contribution to the Bibliography of the Subject・Index

Volume 64: John Bickerdyke *The Curiosities of Ale and Beer: An Entertaining History* (1886*)

ISBN 978-4-86340-258-4・464 pp., ill.・19,000円+税

同様にこのジャンルの古典的著作。著者名は Charles Henry Cook のペンネーム。大衆小説家で多くの釣り関連本を書いた人物。

Origin and Antiquity of Ale and Beer・Home-Brewed Ales・Use and Importance of Hops in Beer・Ancient and Curious Laws Relating to the Manufacture and Sale of Ale and Beer・Brewing and Malting in Early Times・Various Kinds of Ales and Beers・Ale Houses・Ancient Merry-Makings, Feasts and Ceremonies・Drinking Customs・Old Ballads, Songs and Verses・Brewing in the Present Day・Porter and Stout・Beverages Compounded of Ale or Beer, with a Number of Receipts・Old Medical Writers on Ale; Adulteration; Advantages of Malt Liquors to Labouring Classes; Temperance versus Total Abstinence・Index

* date according library catalogues



Contents of Part 16

Volume 65: W. T. Marchant, ed. *In Praise of Ale; or, Songs, Ballads, Epigrams, and Anecdotes Relating to Beer, Malt, and Hops* (1888)

ISBN 978-4-86340-260-7・640 pp.・23,000円+税

著者は業界誌の編集者であるが、現在では本書の編集者として、また酒宴の歌や National Beverage というビールのパラドの研究家として名が通る。著者は本書でビールの歴史が「歌や物語の中に現れて、それぞれの時代の風習や慣習をありありと照らし出すだろう」と語る。ただヴィクトリア朝の道徳観に縛られて、「かなり機知に富んだものでも、現在においてはあまりに粗野なものは除外しなければならなかった」ため、いわゆる “お下劣” な歌はほとんど含まれていないのは残念なことである。

History・Carols and Wassail Songs・Church Ales and Observances・Whitsun Ales・Political・Harvest Songs・General Songs・Barley and Malt・Hops・Scotch Ale Songs・Local and Dialect Songs・Trade Songs・Oxford Songs・Ale Wives・Brewers・Drinking Clubs and Customs・Royal and Noble Drinkers・Black Beer・Drinking Vessels・Warm Ale・Facts, Scraps, and Ann

Volume 66: James Mew & John Ashton *Drinks of the World* (1892) & Edward Spencer [Mott] *The Flowing Bowl: A Treatise on Drinks of All Kinds and of All Periods, Interspersed with Sundry Anecdotes and Reminiscences* (1899)

ISBN 978-4-86340-261-4・626 pp., ill.・23,000円+税

酒類の多様性と飲酒の楽しみを礼賛する 1890 年代の 2 タイトル。*Drinks of the World* は当時の英国人が知るあらゆる種類の酒についての、文献また口述から得た情報に、著者たちの個人的な体験を交えて仕立てた一般読者向けの辞書。*The Flowing Bowl* は「あらゆる種類の、そしてすべての時代の酒」についての、歴史的秘話、著者の見解や好みの飲み方などを交えた、19 世紀末に典型的な、陽気な雰囲気のエッセイ集。著者は本シリーズ V. 60 にも著作がある。

[Mew & Ashton] The Drinks of Antiquity・Classical Wines・Northern Drinking・Wines・Cider・Gin・Whiskey・Rum・Liqueurs・American Drinks・Beers・Tea・Maté・Coca・Kola・Coffee・Cocoa・Aerated Drinks・Milk・Index

[Spencer] The Old Adam・More Frightful Examples・Drinks Ancient and Modern・Some Old Recipes・Glorious・All Ale・A Spirituous Discourse・Other Spirits・Cups Which Cheer・Punch・Strange Swallows・“The Boy”・The Old Wine and the New・The Long and the Short of It・Still Harping on the Drink・“Apple Sass”・Cordials and Liqueurs・The Aftermath of Revelry・The Drinks of Dickens・Sworn Off!・Index

Volume 67: Frederick W. Hackwood *Inns, Ales, and Drinking Customs of Old England* (1892)

ISBN 978-4-86340-262-1・474 pp., ill.・20,000円+税

古物研究者によるこのジャンルの古典的著作。著者は学校長で郷土史家。本シリーズ V. 54 の著者でもある。

Genesis of Ales and Inns・Medieval Brewing・The Influence of the Church・The Medieval Inn・Vintners and Taverns・Brewers and Breweries・The Universality of Ale・Ancient Restrictions on Brewing and Selling Ale・Early Licensing and Legislative Repression・Restrictive Punishments in the Olden Time・Introduction of Ardent Spirits and Advent of the Excise・The Gin Fever・Lingering Effects of the Gin Policy・Drinking Customs・Drunkness the National Vice・Some Mysteries of the Drinking Cult・Old Tavern Life・The Old-Time Popularity of Inns・In Praise of Inns・Inns as Public Institutions・Some Historic Inns・The Inns of Fiction・Innkeepers and Innkeeping・Innkeepers' Tokens・Public-House Signs・Signboards and Their Painters・Sign Rhymes・Compounded Beverages, Warm Drinks, &c.・Drinking Songs・Drinking Vessels・Advent of the Coffee-House (1652)・Suburban Tea-Gardens・Smoking・Index

酒—イギリス人の生活に不可欠なもの

小林 章夫 ● 上智大学名誉教授・帝京大学教授

いまさら言うまでもなく、イギリス人の生活にとっての酒となると、とりわけビールが欠かすことのできないものであって、だからイギリス文化の歴史にはビールに関するテーマが頻出するのである。ところで「世界のアルコール飲料の歴史をたどると、ワインという素晴らしい飲み物に恵まれた民族と、これに恵まれなかった哀れな民族とに分かれる」とは、ワインの世界を語らせては随一とされるヒュー・ジョンソンの言葉(拙訳『ワイン物語』)だが、このイギリス紳士の言にもかかわらず、イギリス人はビールに淫して飽きる事がなかったし、現在もこれを飲んで倦むことがない。

いや実は、それどころかポルドーの高級ワインはイギリスの上流階級が好んでやまなかったものだし、ポート・ワイン、つまりポルト酒はイギリス人の食後酒として不動の地位を守り続けてきた。しかも最近ではイギリス産のスパークリング・ワインが人気を集めているというから、変われば変わるものである。しかしイギリス人と酒と言えば、まずはビール、あるいはエールであり(ビールとエールの違いに関しては、一昔前には喧しい議論があったが、現在は同じようなものとして扱われている)、したがって中世以来、この飲み物を提供してきたさまざまな酒場、エールハウス、タヴァン、インなどの「パブリック・ハウス」、要するに現在は「パブ」の名前で総称されるものの歴史が語られるのである。

さてここに復刻された8つの文献は、19世紀半ばから20世紀初頭に出版されたもので、イギリス人、イギリス社会とアルコール飲料とのかかわりを語った書物である。ただし一つだけ特異なものとして、*Drinks of The World*(1892)なるものがあり、これはそのタイトルが示す

ように、世界の飲み物の歴史を跡づけたものであって、ここには古代からのアルコール飲料の歴史が豊かなエピソード、図版とともに紹介されている。著者は二人、その一人は近世から近代のイギリス文化史に優れた話題を提供してきた John Ashton という履歴不明の人物(この人物の著作は、アティーナ・プレスがすでに出版した「イギリス研究基本文献シリーズ Part 5」に6冊が復刻されている)である。このアシュトンが残した書物に大いに助けられてきた筆者には嬉しいことこの上ない。

この文献以外のものは、やはりビールが中心となり、この飲み物にまつわる興味深いエピソード、ビールを寿ぐ歌や詩を紹介した文献、そしてもちろん中世以来の酒場の歴史を扱ったものとなっているが、この中でも特に興味を惹くのは Frederick W. Hackwood なる著者の手になる *Inns, Ales, and Drinking Customs of Old England* (1909) である。全体で34章、400頁近くに及ぶこの大著には、古代からの飲み物の歴史に始まり、何と最終章では喫煙文化にまで筆が及んで読者を飽きさせることがない。文学作品への言及も数多くあるだけでなく、コーヒー・ハウスや諷刺画家ウィリアム・ホガースの作品なども取り上げられていて、多くの読者が注目すること間違いのない文献である。

もう一つ、どうしても取り上げるべきは禁酒運動である。言うまでもなく19世紀半ばはイギリスで禁酒運動が盛んになった時期で、今回復刻されたものには、禁酒運動に賛同する立場から資料を跡づけたものが含まれている。しかしヴィクトリア女王がこの運動に肩入れたにもかかわらず、イギリス人のビール好き、そしてジンをがぶ飲みする風潮は衰えることがなかった。

イギリスにおける酒や嗜好品の歴史を興味深く辿るには、ここに翻刻された貴重な文献が情報の宝庫として大いに役立つことは間違いあるまい。いやそれだけではなく、イギリス人の生活にとって不可欠な話題に関心を有する人々には、色々と愉快的なエピソードが提供されているから、それこそ酒席での歓談のネタとして絶好の話題が提供されるはずである。大いに楽しまれることを望みたい。

そして、このような貴重な資料を後世に残してくれた人々、恐らくはジョン・アシュトンをはじめとする在野の研究者たちの功績に感謝する気持ちを忘れてはなるまい。



【発行】

Athena Press

株式会社 アティーナ・プレス



〒112-0011 東京都文京区千石4-33-18

Tel: 03(3946)2117 Fax: 03(5977)8026

E-mail: eigyo@athena-press.co.jp

http://www.athena-press.co.jp

【取扱書店】